

## 2020年11月22日 説教「私はヨセフです」

### 創世記 45 章 1～15 節

44 章において、ユダは兄弟を代表して、ベニヤミンの身代わりになって奴隷になると、信仰に基づく決意しそれを申し出でました。

#### 1. 自らを明かすヨセフ (1～5 節)

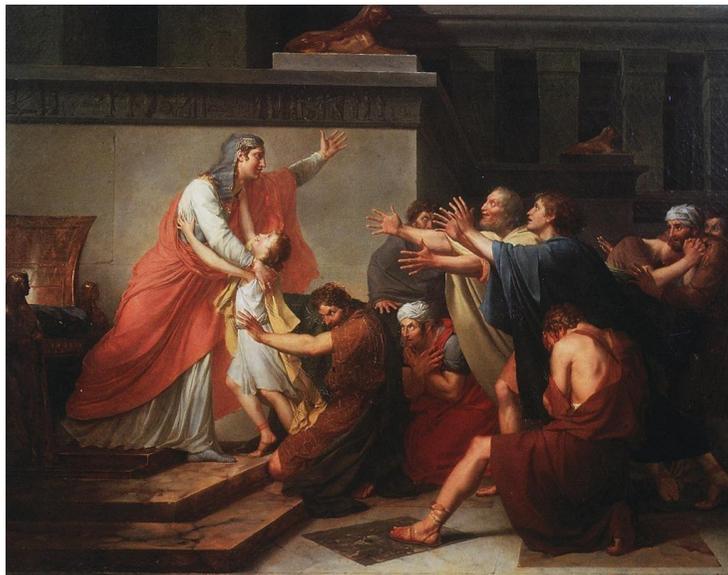
① 声を上げて泣き (1-2) 「ヨセフは、そばに立っているすべての人の前で、自分を制することができなくなって、『みなを、私のところから出しなさい。』と叫んだ。ヨセフが兄弟たちに自分のことを明かしたとき、彼のそばに立っている者はだれもいなかった。しかし、ヨセフが声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、パロの家の者もそれを聞いた。」ヨセフは自分を制することができないほどに、興奮していたのです。そこで、近くの者達を部屋の外に出るように呼びました。側近の者達は部屋の外にいて、ヨセフの泣き声を聞いたのです。

② ヨセフであると明かし (3-4) 「ヨセフは兄弟たちに言った。『私はヨセフです。父上はお元気ですか。』兄弟たちはヨセフを前にして驚きのあまり、答えることができなかった。ヨセフは兄弟たちに言った。『どうか私に近寄って下さい。』彼らが近寄ると、ヨセフは言った。『私はあなたがたがエジプトに売った弟のヨセフです。』そして、ついに兄弟たちに自分がヨセフであることを明かしました。当然通訳を介さずにヘブル語で、言ったのです。「私はヨセフです！お父さんは元気ですか？」。兄弟たちは息を飲んで、啞然とします。きよとんとして、何が起きているかわからない兄弟たちに、ヨセフは「あなたがたがエジプトに売ったヨセフです！」と重ねて伝えました。

③ 神は命を救う為に (5) 「今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に私を遣わしてくださったのです。」そして、兄弟達が隊商たちにヨセフを売ったのは神のご計画であったという理解を述べます。つまり、神はイスラエルの民の命を救う為に、予めヨセフをエジプトに送ったのだと説明したのです。だから、自分達を責めるなども説きました。

#### 2. 実に神がここに遣わした (6～11 節)

① 先に遣わして (6-7) 「この二年の間、国中にききんがあったが、まだあと五年は耕すことも刈り入れることもないでしょう。それで神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。それは、あなたがたのために残りの者をこの地に残し、また、大いなる救いによって



あなたがたを生きながらえさせるためだったのです。」ヨセフはさらに言います。その地に広がる飢饉はまだ5年は続き、収穫が見込めないこと。だからこそ、自分が先にこの地に遣わされたこと。残りの民であるイスラエル人全家を生かすためにこの地に送られたと述べるのです。

- ②ここに遣わした神(8)「だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。神は私をパロには父とし、その全家の主とし、またエジプト全土の統治者とされたのです。」ここに神中心の、神学思想が語られます。ヨセフは、エジプトに送られたのは、兄弟達の仕業というよりも、神ご自身あり、ヨセフをエジプトの宰相にされたのも神であると述べたのです。
- ③父への伝言を(9~11)「それで、あなたがたは急いで父上のところへ上って行き、言ってください。『あなたの子ヨセフがこう言いました。神は私をエジプト全土の主とされました。ためらわずに私のところに下って来ててください。あなたはゴシェンの地に住み、私の近くにいることになります。あなたも、あなたの子と孫、羊と牛、またあなたものすべて。ききんはあと五年続きますから、あなたも家族も、また、すべてあなたのもものが、困ることがないように、私はあなたを養いましょう』と」さらにヨセフは兄弟たちに言います。父親にヨセフがエジプトの統治者になっていること、ためらわずにエジプトのゴシェンの地に来て住むことを促すようにと伝えたのです。ヨセフは彼らの命を守ると宣言しました。ゴシェンとはエジプト北部の広い地域です。

### 3. しかと見てください(12~15節)

- ①自分の目で(12)「さあ、あなたがたも、私の弟ベニヤミンも自分の目でしかと見てください。あなたがたに話しているのは、この私の口です。」その上で、改めて兄弟たちに、格別ベニヤミンには、しっかりとヨセフであることを確認してくださいと訴えるのでした。
- ②父を連れて(13)「あなたがたは、エジプトでの私のすべての栄誉とあなたがたが見たいっさいのことを私の父上に告げ、急いで私の父上をここにお連れしてください。」さらに重ねて、ヨセフがエジプトの地においては栄誉を受けていること、その具体的な印象を父ヤコブに伝えるようにと言った上で、父親が納得してこの地に案内してくださいと、兄弟達に願ったのです。
- ③抱いて泣き(14~15)「それから、彼は弟ベニヤミンの首を抱いて泣いた。ベニヤミンも彼の首を抱いて泣いた。彼はまた、すべての兄弟に口づけし、彼らを抱いて泣いた。そのあとで、兄弟たちは彼と語り合った。」ヨセフはベニヤミンを抱いて泣きました。兄弟達全員に口づけをして、抱き合って泣きました。また、語り合いました。二十数年ぶりの再会であり、彼らがそれぞれの地で生きてきた歩みを

分かち合いました。ヨセフはポティファルでの家のこと、監獄時代、夢の解き明かしを通してパロに取り立てられて、今の地位に至ったことを伝えたことでしょう。兄弟達も、それぞれの結婚や家族のことを伝えたことでしょう。

### 《結論》

ヨセフの生涯を伝える記事のクライマックスと言えるでしょう。自らの正体を伝えることを、じらしにじらししてきたように見えますが、それがなければ、ユダをはじめとした兄弟達が底から悔い改めはなかったことでしょう。また、そこまで至らなければ、ヨセフの心の内にも本当の意味での赦しが備わらなかったでしょう。時が満ちて、まだ段取りが整えられて、ついに「私はヨセフです」と明らかにしたのです。その時の兄弟達の姿や表情は、想像すればするほどに楽しくなります。自分達が売り払ったヨセフは、20年もの年月を経ているのだから、死んでいるかもしれないし、外国の地において苦勞しているかもしれない・・・。皆目見当がつかないでいました。それについては、父親にもうそをついていた兄弟達です。神の前にも、父親の前にも、罪の意識にさいなまれていたことでしょう。ところが、そのヨセフがエジプトの宰相となっている。これまで難しい交渉相手でもあったその人が、ヨセフであった！もう頭は混乱し、言葉がひとつも出てこないのは当然でした。

宰相となったヨセフから、自分達が犯した罪のゆえに、罰を受けてもしかたがないのです。ところが、そのヨセフは涙を流して再会を喜び、断罪するような気配は全くありません。嘘偽りなく、自分達の罪を赦していてくれるように見えます。それに何といても、ヨセフの伝える考え方は人間的ではなく、神中心のものでした。これらの出来事は神のご計画のものであるという、摂理の思想に立っていたのです。つまり神はすべてのことを用いて、事を起こし、導き、事を完成させてくださるとヨセフは確信していたのです(ローマ 8:28)。ヨセフが確信するように、飢饉によって苦しむことになるイスラエルの民を救うために、神はあらかじめヨセフをエジプトに送ってくださっていたのです！ハレルヤ！です。

私たちの現実生活も、将来はわかりません。予想が着くこともあるかもしれませんが、予想外の事も起こるものです。たとい、今が受け入れにくい状況にあったとしても、主に期待しましょう。先が見えない事態であったとしても、主の導きを信じて進んでいきましょう。それが難しい仕事であっても、いりくんだ人間関係であったとしても、人間的な方法ではなく、主の御力とお取り扱いに委ねたいのです。主は私たちの考えを越えて事を起こされるのです。誰もヨセフがエジプトの宰相になるなどと想像ができませんでした。

「わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。」(エレミヤ書

### 33 章 3 節)

そのような出来事は、私たちにも起きる可能性があるのです。希望を失わず、信仰を持って、愛をいただきながら歩いていこうではありませんか。「わが行く道 いついかに なるべきかは つゆ知らねど 主は御心なしたまわん」(讃美歌 494 番)